



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4604		
科目名	ゼミナールⅣ		
担当教員	山下 博之		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 5		
講義室	1302	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる論理知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F〔探求力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 5－J〔創造的挑戦力・達成力〕コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイディアを革新的かつ創造的に結合し、リスクをとりながら、結果にむすびつけることができる。 D P 6－K〔表現力・対話力〕文章口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L〔協働力・牽引力〕集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（10%） F 1 探求と論拠（20%） I 1 理解・分析と読解（15%） I 3 情報分析（10%） J 2 創造的思考（5%） K 1 ライティング・コミュニケーション（10%） K 2 オーラル・コミュニケーション（10%） L 1 チームワーク（10%） M 1 統合的・応用的学修（10%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究員として、国、地方自治体の防災政策及び消防政策に関する調査、研究業務に従事してきました。2018年度には、消防庁の「国民保護に関する懇話会」の委員を務めました。また、2019年度以降は栃木県中小企業団体中央会による「災害時応援協定締結支援事業」（栃木県委託事業）の講師・アドバイザー役として、各種中小企業の災害時応援協定及びBCPの取り組みを支援しています。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット区分：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		

科目概要・キーワード	管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。ここでは、個人研究を卒業論文として執筆し、完成させるまでの総合的なプロセスを指導します。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■ キーワード 防災・減災、政策リサーチ、リサーチクエストと仮説、資料・データ、共同研究	
授業の趣旨	■ 副題 研究計画書に基づき仮説を検証しながら研究を進め、卒業論文にまとめましょう。 ■ 授業の目的 ゼミⅣの目的は次の3つの点です。 ・研究計画書に基づき自らの設定した仮説を検証すること。 ・検証の結果から含意を引き出すこと。 ・研究を踏まえ卒業論文を執筆し、期限までに提出すること。 ■ 授業のポイント ・ゼミⅣでは、最終的に卒業論文の完成、提出を目指します。 ・毎週、卒論の途中経過を担当者が発表し、発表内容について議論するとともに、論文の書き方、文章の書き方等について参加者全員で共有します。	
総合到達目標	■ 旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・自らが作成した研究計画を説明することができる（第1回～第15回）。 ・自らが作成した研究計画に基づいて仮説を検証することができる（第1回～第15回）。 ・自らの研究の途中経過について説明することができる（第1回～第15回）。 ・自らの研究に関連する文献を自ら収集し読むことができる（第2回～第15回）。 ・自らの研究を論文にまとめることができる（第11回～第15回）。 ■ 授業を通じて他者とコミュニケーションをとることができる。 ・読みやすさ、見やすさを意識しながら発表用の資料を作成することができる（第2回～第4回）。 ・発表の際、聞き手の反応を意識しながら発表することができる（第2回～第15回）。 ・発表に対する自分なりの意見や質問を述べることができる（第2回～第15回）。	
成績評価方法	■ レジューメの作成・報告 4回（35%）：適用ルーブリックE1、F1、I1、I3、K1、K2、M1 （評価の観点）報告すべきこと（文献の内容、自分の研究内容等）についてのポイントが押さえられたレジューメ・パワポかどうか、分かりやすいレジューメ・パワポかどうか、聞き手が理解できるよう報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度、ポイントを押さえられているかどうか、レジューメ・パワポ内容または口頭による説明の分かりやすさ等についての評価を行い、アドバイスします。 ■ 卒論の執筆・提出 1回（40%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、M1 （評価の観点）自ら設定したリサーチクエストに対する仮説を検証するための方法や手順、スケジュール等を研究計画書に整理し、提出してもらいます。自ら設定したリサーチクエストに答える上で、①設定した仮説が適当か、②仮説を検証するため検証方法は適当か、③十分な先行研究を踏まえているか、④議論に論理の飛躍・矛盾はないか評価します。 （フィードバック方法）途中経過についての報告時にその都度アドバイスします。 ■ 授業参加度 15回（25%）：適用ルーブリックE1、F1、I1、I3、K1、K2、L1 （評価の観点）上記のレジューメ・パワポ・レポート等の報告者が行った報告について自分なりに考察し、意見及び疑問を提示しているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）その都度、評価しアドバイスします。	
履修条件	『社会調査法』、『災害対策論』を履修していることが望めます。	
履修上の注意点	・報告や議論に積極的に参加してください。 ・無断欠席は厳禁。欠席する場合は、教員に直接連絡をすること。 ・フリーライド（ただ乗り）は認めません。ゼミ活動への積極的な貢献が望まれます。	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマと概要 仮説の検証（1） ② 授業概要 ・自らのリサーチクエストに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。

	・本授業により、自らのリサーチエスチョンに対する仮説の検証方法に関する基礎的・応用的なスキルを身に付け、実践することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） 自らのリサーチエスチョンに対する仮説を検証した上で、仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果について整理し、レジュメを作成する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジュメについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジュメに補足する。
2	① 授業テーマと概要 仮説の検証（2） ② 授業概要 ・自らのリサーチエスチョンに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らのリサーチエスチョンに対する仮説の検証方法に関する基礎的・応用的なスキルを身に付け、実践することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） 自らのリサーチエスチョンに対する仮説を検証した上で、仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果について整理し、レジュメを作成する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジュメについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジュメに補足する。
3	① 授業テーマと概要 仮説の検証（3） ② 授業概要 ・自らのリサーチエスチョンに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らのリサーチエスチョンに対する仮説の検証方法に関する基礎的・応用的なスキルを身に付け、実践することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） 自らのリサーチエスチョンに対する仮説を検証した上で、仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果について整理し、レジュメを作成する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジュメについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジュメに補足する。
4	① 授業テーマと概要 仮説の検証（4） ② 授業概要 ・自らのリサーチエスチョンに対する仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果とそれを踏まえた考察、含意について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らのリサーチエスチョンに対する仮説の検証方法に関する基礎的・応用的なスキルを身に付け、実践することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） 自らのリサーチエスチョンに対する仮説を検証した上で、仮説の検証方法、仮説の検証過程、仮説の検証結果について整理し、レジュメを作成する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジュメについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジュメに補足する。
5	① 授業テーマと概要 構成案の作成（1） ② 授業概要 ・自らの研究の意義や内容、成果をまとめた論文の構成（目次案）及び各章の概要について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための形式を身に付け、実際に論じることができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分）

	・自らの研究の意義や内容、成果をまとめた論文の構成（目次案）及び各章の概要をまとめたレジюмеを作成してくる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
6	① 授業テーマと概要 構成案の作成（2） ② 授業概要 ・自らの研究の意義や内容、成果をまとめた論文の構成（目次案）及び各章の概要について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための形式を身に付け、実際に論じることができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） ・自らの研究の意義や内容、成果をまとめた論文の構成（目次案）及び各章の概要をまとめたレジюмеを作成してくる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
7	① 授業テーマと概要 構成案の作成（3） ② 授業概要 ・自らの研究の意義や内容、成果をまとめた論文の構成（目次案）及び各章の概要について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための形式を身に付け、実際に論じることができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） ・自らの研究の意義や内容、成果をまとめた論文の構成（目次案）及び各章の概要をまとめたレジюмеを作成してくる。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。とができるようになる。
8	① 授業テーマと概要 卒論ドラフトの作成（1） ② 授業概要 ・卒論のドラフトをもとに、論文内で議論する主だった論点の内容について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための論点の配置を身に付け、実際に論じることができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） ・論文内で議論する主だった論点を各章ごとに整理したレジюме（卒論のドラフト）を作成する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
9	① 授業テーマと概要 卒論ドラフトの作成（2） ② 授業概要 ・卒論のドラフトをもとに、論文内で議論する主だった論点の内容について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための論点の配置を身に付け、実際に論じることができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） ・論文内で議論する主だった論点を各章ごとに整理したレジюме（卒論のドラフト）を作成する。 ④ 復習（60分） ・報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
10	① 授業テーマと概要 卒論ドラフトの作成（3）

	② 授業概要 - 卒論のドラフトをもとに、論文内で議論する主だった論点の内容について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 - 本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための論点の配置を身に付け、実際に論じることができるようになる。 - 実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） - 論文内で議論する主だった論点を各章ごとに整理したレジюме（卒論のドラフト）を作成する。 ④ 復習（60分） - 報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
11	① 授業テーマと概要 卒論ドラフトの作成（4） ② 授業概要 - 卒論のドラフトをもとに、論文内で議論する主だった論点の内容について報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 - 本授業により、自らの研究の意義や内容、成果を客観的、論理的、説得的に論じるための論点の配置を身に付け、実際に論じることができるようになる。 - 実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） - 論文内で議論する主だった論点を各章ごとに整理したレジюме（卒論のドラフト）を作成する。 ④ 復習（60分） - 報告したレジюмеについて、教員や他の履修者から受けた指摘をレジюмеに補足する。
12	① 授業テーマと概要 卒論原稿（案）の作成（1） ② 授業概要 - 卒論原稿（案）をもとに、論文内で文章表現や脚注、参考文献、図表等の書式などを確認し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 - 本授業により、論文で用いるべき文章表現や脚注、参考文献、図表等の書き方に関する基礎的なルールを身に付け、自ら活用することができるようになる。 - 実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） - 卒論原稿（案）を作成する。 ④ 復習（60分） - 報告した卒論原稿（案）について、教員や他の履修者から受けた指摘を卒論原稿（案）に反映する。
13	① 授業テーマと概要 卒論原稿（案）の作成（2） ② 授業概要 - 卒論原稿（案）をもとに、論文内で文章表現や脚注、参考文献、図表等の書式などを確認し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 - 本授業により、論文で用いるべき文章表現や脚注、参考文献、図表等の書き方に関する基礎的なルールを身に付け、自ら活用することができるようになる。 - 実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） - 卒論原稿（案）を作成する。 ④ 復習（60分） - 報告した卒論原稿（案）について、教員や他の履修者から受けた指摘を卒論原稿（案）に反映する。
14	① 授業テーマと概要 卒論最終発表会（1） ② 授業概要 - 卒論の内容についてパワーポイントを使って報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 - 本授業により、論文の内容についてパワーポイントソフトに落とし込み、限られた時間内でポイントを報告することができるようになる。 - 実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） - 卒論内容についてパワーポイントにまとめる。

	④ 復習（60分） ・教員や他の履修者から受けた指摘を卒論原稿に反映する。
15	① 授業テーマと概要 卒論最終発表会（2） ② 授業概要 ・卒論の内容についてパワーポイントを使って報告し、全体で討議します（E1、F1、I1、I3、K1、K2、L1、M1）。 ・本授業により、論文の内容についてパワーポイントソフトに落とし込み、限られた時間内でポイントを報告することができるようになる。 ・実務経験を踏まえながら説明していきます。 ③ 予習（180分） ・卒論内容についてパワーポイントにまとめる。 ④ 復習（60分） ・教員や他の履修者から受けた指摘を卒論原稿に反映する。
関連科目	■総合科目 政治学1（RMGT1139）、政治学2（RMGT1140）、社会学1（RMGT1133）、社会学2（RMGT1134）、経済学1（RMGT1137）、経済学2（RMGT1138） ■専門基幹科目 ロジスティクス論（RMGT2306）、行政法と行政過程Ⅰ（RMGT2321）、行政法と行政過程Ⅱ（RMGT2322）、地方自治と法（RMGT2361）、企業取引と法（RMGT2351）、企業組織と法（RMGT2352）、企業統治と法（RMGT2353） ■専門展開科目（共通領域科目） 社会調査法（RMGT3301）、財政学（RMGT3305） ■専門展開科目（災害マネジメント領域） 災害と法（RMGT3401）、災害対策論（RMGT3501）、災害情報論（RMGT3502）、自然災害論（RMGT3503）、大規模事故論（RMGT3504）、地域防災論（RMGT3505）、災害史（RMGT3506）、復旧・復興論（RMGT3511）
教科書	■研究の方法論に関する教材 ・伊藤修一郎、2011年『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会。 ・荻谷剛彦、2002年『知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。 ■災害対策に関する教材 ・秋吉 貴雄、2017年『入門 公共政策学 社会問題を解決する「新しい知」』中央公論社。 ・浦野 正樹・吉井 博明・大矢根 淳・田中 淳編、2007年『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』弘文堂。 ・大石久和、2012年『国土と日本人 災害大国の生き方』中央公論社。 ・熊本日日新聞社編集局、2016年『熊本地震 連鎖の衝撃』熊本日日新聞社。 ・永松伸吾、2008年『減災政策論入門 [シリーズ災害と社会 第4巻]』弘文堂。
参考書・参考URL	参考資料や参考書は適宜授業で提示する。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室またはZoom等で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

